

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1270101569
法人名	レビー・ケア株式会社
事業所名	レビー・グループホーム「白雲館」
所在地	千葉県千葉市中央区弁天3-17-2 (電話) 047-338-8855

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティーケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年1月15日	評価確定日	2月28日

【情報提供票より】(平成20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9 人	非常勤 7 人 常勤換算11.95 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000円	その他の経費(月額)	光熱水費20,000円, 理美容・オムツ・日用品・レクリエーション実費		
保証金の有無(入居一時金含む)	300,000円	有りの場合償却の有無	有り: 居室内修繕費, 室内クリーニング代		
食材料費	朝食	360 円	昼食	510 円	
	夕食	560 円	おやつ	1日の料金に含む	
		1日当たり	1,430 円	1ヶ月当たり	42,900円

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名	
要介護1	8 名	要介護2	4 名			
要介護3	1 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	83.4 歳	最低	68 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	えりやま医院(内科・皮膚科) 学園前歯科クリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

千葉駅から徒歩15分で、千葉公園・護国神社に隣接する開設5年目のホームである。3階建ての2階、3階がグループホーム、1階はデイサービスになっている。運営法人は別の地域でも高齢者の複合施設やグループホームを運営している。そのなかでグループホーム「白雲館」はサービスや運営が管理者に一任され、柔軟に対応できるしくみになっている。1階のデイサービスを会場として開催する演芸会には、グループホームの入居者のほか地域の人たちも参加して楽しんでおり、デイサービス事業が活用できる多機能ホームといえる。近くには中央図書館もあり、恵まれた環境を生かしたケアが期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族会・運営推進会議の開催が主な改善項目であった。家族会は年4回開催した実績がある。運営推進会議については、開催できず引き続き課題となっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事前に全体会議で意義・目的などを説明し、評価表の作成についても職員の意見を聞いて作成したが、全職員が自己評価にかかわるゆとりはまだない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	開催に向けて努力したが、参加者が少なく開催できないままであり、今後の課題となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	法人広報誌「みのり」と入居者のモニタリング表を毎月家族に郵送している。家族会を4回開催し、意見交換した。また、家族の面会時に意見、希望を聞き運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の町内会の祭りに参加し、その際は、ホームとして介護相談を引き受けている。デイサービスの行事に参加することによっても地域住民と交流している。地元出身で地域との馴染みの関係が深い職員がいるので、人脈を活用して、より一層地域に根ざしたホームになることが期待される。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度からあらたにグループホームの理念を、「自分のことは自分で」に設定した。入居者が「自分でできること」にスタッフは余計な手助けをしない。逆に「出来ない」ことはきちんと確認して手助けする。入居者の残された能力を存分に活かして、自立を促す支援にしていこうとの考えを示したものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」は各ユニットの見やすい場所に掲示されている。毎月開催される職員の全体会議やケア会議で確認し合い、日々のケアに活かすことにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に会員として参加している。近隣の公園で催される祭りには進んで協力し、祭りの開催中にはホームとして地域の人たちの介護相談を引き受けている。地元出身で地域とのかかわりが深い職員もいる。1階のデイサービスでは、訪ねてくる保育園児との交流も活発にしている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価システムについては、その意義を事前に職員に説明し、できるだけ意見を取り入れて施設運営やサービス改善に役立てることを目指しているが、まだ職員全員が自己評価にかかわっている状況は見られない。		個々の職員が率先して自己評価にかかわることで、気づきを得ることもあり、大きな意義がある。全員で取り組むことが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、呼びかけでも参加してくれる人が少なく、開催できないでいる。構成員には町内会、老人会の役員、行政の担当者、家族らを予定しているが、組織化が十分でなく、会の運用規定などもこれから、というところである。		運営推進会議は、地域の理解と支援を得る重要な場として位置づけられている。災害時の協力を得たり、サービス向上に向けた意見交換の場にもなることから、開催への積極的な取り組みが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員が毎月、来所している。その職員を通して、施設と行政との情報交換や必要な連絡を行なっている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、広報紙「みのり」を、出納帳・モニタリング表などと一緒に郵送している。また入居者の体調の変化等はその都度電話で家族に連絡している。家族とのやりとりは介護支援専門員が中心となって行なっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が発足し、この1年間に4回開催した。参加する家族は殆ど決まっているが、ホームと家族との貴重な意見交流の場となっている。家族の面会時も、要望や意見を聞いて、日常のケアに反映するようにしている。	○	家族会は、ホームと家族を繋ぐ場であり、家族同士の交流の場でもあるので、参加家族を増やす努力が期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率が高く、離職は少ない。担当職員はユニットに固定しておらず、全職員が全入居者と交代でかわるので、職員異動などによる入居者へのダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については研修計画があり、毎月の全体会議の終了後を利用して実施している。この全体会議には、非常勤職員も参加している。外部研修についても、参加を促している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人が別の地区で運営しているグループホームと、テレビ電話で情報交換をしている。千葉市のグループホームがまとめて連絡協議会を設けているが、ここにはまだ参加していない。		グループホーム同士の情報交換や相互見学、サービス向上の話し合いを進めたりするためにも、グループホーム連絡会等に参加して、ネットワークを広げることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居以前の入居者の暮らしぶりやなじみの関係を把握し、環境の変化に入居者が不安を感じることがないように、時間をかけて生活支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の際には、女性の入居者が中心となって調理や盛り付け、後片付けなど、それぞれの役割を發揮している。入居者が昔の暮らしぶりや思い出話を職員に話すことも多く、それが職員の勉強になったり、豊かな気持ちになったり、互いに支えあっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者がいま何を考え、何をして欲しいと思っているか、などを外出の際や居室で介助しているときを捉えて引き出している。その情報を「日常介助メモ」に残してスタッフ全員で共有できるようにしている。介護度が重くなり、気持ちを表出できない入居者については、表情やしぐさ、ふと漏らす言葉などから、思いを理解するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画はフロアの責任者とケアマネジャーが本人・家族の希望や意向を聞いて原案をつくり、それをケア会議で補足して作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年に一度、定期的に見直しを行なうほか、体調変化や特別の状況が生じたときなどにも随時見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設にはショートステイ用の1室が確保されており、地域の人から緊急の短期入所を申し込まれた場合などに提供している。また1階に開設しているデイサービスと上階のグループホームの利用者が行き来して交流出来るような配慮もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の紹介で入居する人が多いので、体調変化に伴う受診も多くは協力病院で対応する。しかし、なかには従前からのかかりつけ医がある入居者もあり、それらの医師との関係維持を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応をどうするかについては、本人・家族の意向を聞き、協力病院とも話し合っている。基本的には「径口摂取できる間は施設で対応可能」と本人・家族に伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入浴や排泄介助時のプライバシーについては、マニュアルや研修を通して、十分認識している。また個人情報の取扱も十分注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者がホームでの日々をどのように過ごしたいかという思いをケアプランに盛り込んでいる。そのケアプランをもとに、一人ひとりのその日の体調や気分を大切にしながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は契約の食品会社から届く食材とメニューをもとに、スタッフと入居者が協力して調理しているが、ひな祭りやクリスマスには、自分たちで食材の買い出しに行き、料理をしている。時には、入居者の希望で外食をすることもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日置きの後半を基本とし、入りたくないときには無理強いせず、入浴時間も希望に沿うようにしている。職員は1対1で対応している。	○	浴室環境という面では、脱衣所が洗濯室と共用になっているので、洗濯機が並んでおり、床も防水床材のままである。脱衣かごはあるが、他にも、もう少し工夫がされるとよいと思われる。
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護度の比較的軽い入居者が多く、ベランダのプランターで野菜を育てたり、得意の調理を手伝ったり、と役割を担っている。またレクリエーションでは、紙で人形を折ったり切り絵をするなど、それぞれに楽しんでいる。歌が得意な人もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもったままや運動不足にならないよう、入居者の希望に沿いながら、出来るだけ外出に誘っている。また時には、マイクロバスを使って遠出もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事故防止や不審者の侵入などを心配する家族等の意向もあり、夜間は玄関に鍵をかけているが、日中はかけないようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を年2回実施し、そのうち1回は消防署の指導のもとに行なっている。スプリンクラーは設置に多額の費用がかかるため、まだ取り付けられていない。出来るだけ早く設置したいと考えている。	○	グループホームは2階と3階にあり、エレベーターが動かなかった場合の避難路は屋内階段と外階段になる。歩行に障害のある入居者を含めて、夜勤スタッフだけで対応するのは大きな困難が予想される。近隣の救助支援が不可欠であり、そのために地域との協力体制を一日も早く組織化することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食習慣や日々の体調に応じて、食事を普通食にするか刻み食にするかということや摂取量を見極めながら提供している。水分もしっかり補給できるような支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング(ホール)にはテレビのあるソファコーナーがあり、入居者たちが揃って食後のひと時をくつろいでいる。リビングや廊下の壁には入居者のぬり絵や行事の記念写真が飾られ、ホームの暮らしに彩りを添えている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はクロゼットが備えつけてある。それ以外は、使い慣れた本箱などの家具や、絵の額、仏壇などを自由に持ち込めることになっており、入居者が居心地よく過ごせる場になっている。		